

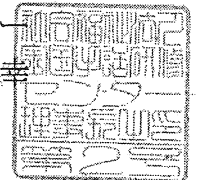
2013年12月19日

各都道府県民生主管部(局)長 殿  
(意思疎通支援事業担当者様)

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
理事長 石野 富志三郎



社会福祉法人全国手話研修センター  
理事長 黒崎 信幸



### 手話奉仕員及び手話通訳者養成講座の新テキスト及び定価について

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、私ども聴覚障害者の福祉向上にご理解ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご存知の通り2013年4月より意思疎通支援事業の手話奉仕員及び手話通訳者養成事業は必須事業となっており、意思疎通支援事業を完全実施するには、手話奉仕員及び手話通訳者の養成をより強化していく必要があります。

一般財団法人全日本ろうあ連盟、及び社会福祉法人全国手話研修センターでは、1998年7月に「手話奉仕員及び手話通訳者の養成カリキュラム」(厚生労働省大臣官房障害保健福祉部)が導入されて以来、厚生労働省カリキュラムに準拠して手話奉仕員及び手話通訳者養成講座テキスト等を発行、普及してまいりました。

そして、このたび手話奉仕員及び手話通訳者養成講座テキスト及び指導書(発売:一般財団法人全日本ろうあ連盟、発行:社会福祉法人全国手話研修センター)を厚生労働省カリキュラムに準拠して、受講者が学習しやすいように全面改訂いたしました。

改訂内容につきましては、導入以降の15年にわたる全国の養成経験を踏まえた上で、手話通訳者養成講座の新テキストは、意思疎通支援事業の担い手である手話通訳者の拡充を効果的に図るべく、これまでの手話奉仕員養成テキストの一部を組み入れるなどの改訂を行い、講座時間を30時間ほど増やしました。手話奉仕員養成講座の新テキストは市町村で学習しやすいよう、入門と基礎を統合しました。

つきましては、事業の意義に鑑み、手話通訳者養成講座時間増への予算の増額にご高配賜りますとともに、既に手話奉仕員養成事業を実施している市町村におかれましては、これまでの講座の質を落とすこと無く、現状維持に努めていただきますようお願い申し上げます。

なお、本件の詳細につきましては、都道府県聴覚障害者協会もしくは市町村聴覚障害者協会と協議いただければ幸いです。また、表題の件につきまして市町村への通知並びに周知のご高配をお願い申し上げます。

## 記

### <添付資料>

1. 手話奉仕員及び手話通訳者養成講座 厚生労働省カリキュラムと現テキスト・新テキスト構成（実技編） 対比表と詳細版
2. 新テキスト（講義編）構成表
3. 新テキストの価格表
4. 新テキストの表紙

### <連絡先>

一般財団法人全日本ろうあ連盟（担当：瀬川・多田）

〒162-0801

東京都新宿区山吹町130 SKビル8F

TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445

社会福祉法人全国手話研修センター（担当：井谷・河井・神村）

〒616-8372 京都市右京区嵯峨天龍寺広道町3-4

TEL 075-873-2646 FAX 075-873-2647

手話奉仕員及び手話通訳者養成講座  
厚生労働省カリキュラムと現行テキスト・新テキスト構成（実技編）対比表

	厚生労働省カリキュラム			現行テキスト		新テキスト	
奉仕員	入門	70時間	30時間	47講座 70.5時間	20講座 30時間	40講座 60時間	18講座 27時間
	基礎		40時間		27講座 40.5時間		22講座 33時間
通訳者	基本	78時間	30時間	52講座 78時間	20講座 30時間	72講座 108時間	通訳Ⅰ 32講座 48時間
	応用		30時間		20講座 30時間		通訳Ⅱ 30講座 45時間
	実践		18時間		12講座 18時間		実践（仮称） 10講座 15時間
総計		148時間		148.5時間		168時間	

※ 実践テキスト（仮称）は、平成25年度26年度の2年間で開発予定。  
従って、10講座15時間は事務局案であり変更もあり得る。

厚生労働省カリキュラムと現行テキスト構成（実技編）

厚生労働省カリキュラム				現行テキスト				新テキスト案			
時間(h)	教科名	目的	内容	時間(h)	講義数	時間(h)	内容	時間(h)	講義数	時間(h)	内容
3	表現基礎練習	1 手話習得に必要な基礎表現能力を習得する 2 コミュニケーション意欲を高める	1 物の形や動作の模倣 2 身振りの表現での伝達(表情・強弱等)	【入門】 1 単語レベルで伝える 2 メッセージで伝える 3 名前(指文字) 4 家族 5 趣味 6 数 7 仕事 8 家の紹介 9 自己紹介まとめ・指文字復習	3	2	つたえあってみましよう	1 身振りの表情・指さしを工夫して伝える 2 身振りの表情・指さしを工夫して伝える 3 名前を紹介しましょう 4 家族を紹介しましょう 5 数字を使って話しましょう 6 趣味について話しましょう 7 仕事について話しましょう 8 住所を紹介しましょう 9 自己紹介をしましょう～まとめ～			
11	手話による表現自己表現	1 簡単な手話表現ができる技術を習得する 2 手話語彙を習得する	1 挨拶・自己紹介(名前表現) 2 自己紹介(家族の表現) 3 自己紹介(趣味の表現) 4 数字・自己紹介年齢・誕生日の表現 5 職業・自己紹介(仕事の表現) 6 自己紹介(住所の表現) 7 空間表現(位置・方向) 8 指文字表現 9 総合練習(自己紹介)	10.5	7	10.5	自己紹介をしましよ ましよう				
7	手話による表現対話の基礎練習	1 会話に必要な疑問の表現・読み取り等対話の基礎技術を習得する 2 手話の語彙を習得する	1 曜日表現、年・月・日、時間表現 2 疑問詞表現	7.5	5	7.5	話してみま しようI				
30	入門					27	H				
6	手話による表現対話練習	1 習得した手話語彙や手話表現技術を使っての会話を練習する。 2 聴覚障害者の生活場面における誤解を理解し、必要な手話語彙を習得する	1 家族との会話練習 2 医療場面での会話練習 3 教育場面での会話練習	6	4	4.5	話してみま しようII				
3	総合練習	1 習得した手話語彙や手話表現を基に相手に伝達する能力のレベルアップを図る 2 聴覚障害者などの手話による会話を通じて実践的なコミュニケーション能力を習得する	1 聴覚障害者と受講者のグループによる手話劇等の発表 2 聴覚障害者との手話によるフリーディスカッション	3	2	1.5	総合練習				
22	手話の基本文法	1 日本の手話の基本文法を習得することにより、表現能力及び読み取り能力のレベルアップを図る 2 手話語彙を習得する	1 真体的表現技術 2 置き換え表現技術 3 手や顔・身体表現 4 格の決定① 5 2人での位置関係 6 格の決定② 7 3人以上での位置関係 8 格の決定③ 指さし 9 格の決定④ 上体移動 10 格の決定⑤ 身体移動 11 空間活用① 前後・左右・上下 12 空間活用② 組み合わせ活用 13 同時性 14 同時活用③ 代理的表現 15 繰り返しの表現 16 指の代理的表現 17 繰り返し表現	22.5	15	22	空間活用① 左右・前後の活用 空間活用② 上下・視線の活用 同時性 31 指の代理的表現 32 繰り返し 33 置き換え 34 まとめ 35 基本文法のまとめ① 36 基本文法のまとめ②				
				合計	60	60	H				

基礎		現行テキスト		新テキスト案	
3	総合練習	1 聴覚障害者との手話による フリーディスカッション 手話による意見発表	16 聴覚障害者とのフリー ディスカッション 手話による意見発表	3 2	37 ろう舌の手話スピーチを 見ましよう 38 みんなで話し合いましよう 39 ろう舌と話あってみましよう 40 まとめの学習 (選択学習)
12	基本文法の応用	1 置き換え表現技術 格の決定① 位置と方向、 2人での位置関係 3 格の決定② 3人以上の 位置関係、視線等の表現 4 格の決定③ 指さし、上体移動 5 空間活用① 体、組み合わせ活用 前後、左右、上下、 6 空間活用② 代理的活用 7 同時表現 両手の活用 8 指の代理的表現	18 レベルアップ講座 具体的表現 19 レベルアップ講座 手・顔・身体表現 20 レベルアップ講座 視線等の表現 21 レベルアップ講座 格の決定① 位置・方向・指さし 22 レベルアップ講座 体の向き 23 レベルアップ講座 空間活用① 左右・前後・上下 24 レベルアップ講座 視線・指さし 25 レベルアップ講座 両手の活用と繰り返し表現 26 指の代理的活用 27 総合表現 手話劇の発表	10.5 7	1 手話の特徴① 「指の代理的活用」 2 手話の特徴② 「具体的表現」 3 手話の特徴③ 「指さし・表情」 4 手話の特徴④ 「繰り返し表現」 5 手話の特徴⑤ 「主語の明確化」 6 手話の特徴⑥ 「まとめの学習1」 7 手話の特徴⑦ 「まとめの学習2」
3	総合練習	1 聴覚障害者と受講者のグループによる手話劇等の発表 2 フリーディスカッション	26 聴覚障害者と受講者のグループによる手話劇等の発表 27 フリーディスカッション	3 2	8 手話通訳の現場から学ぼう
11	手話通訳能力の向上(1)	1 手話通訳に必要な表現能力を習得する 2 メッセージ意図能力の向上を図る 3 要約能力の向上を図る 4 手話語彙を習得する	1 手話の文法的な特徴を整理する(表現) 2 手話の文法的な特徴を整理する(読み取り) 3 通訳にチャレンジ(会場借用) 4 通訳にチャレンジ(家庭訪問) 5 通訳にチャレンジ(診療予約) 6 要約-文章を要約①(京都市環境情報) 7 要約-文章を要約②(ノーマリゼーション) 8 要約-話を聞いて要約① 9 要約-話を聞いて要約② 10 要約-手話を見て要約	1.5 1 6 4 6 4	9 聞き取りの通訳「担任の宿いさつ」 10 場面通訳「パソコンの修理」 11 場面通訳「運失届け」 12 電話通訳「キャンペーン場の予約」 13 文章を要約① 14 文章を要約② 15 話を聞いてチャレンジ作成 16 話を聞いて要約(入学式来賓祝辞)
9	手話通訳の技術(基本)	1 手話通訳に必要な基本技術を習得する 2 手話語彙を習得する	11 逐次通訳技術の習得(聞き取り) 12 逐次通訳技術の習得(読み取り) 13 同時通訳技術の習得(聞き取り) 14 同時通訳技術の習得(読み取り)	7.5 5 3 2 9 6	17 読み取りの通訳①「ろう協の活動」 18 読み取りの通訳②「趣味・スポーツ」 19 読み取りの通訳③「仕事」 20 読み取りの通訳④「地域の交流」 21 読み取りの通訳⑤「デイサービスの1日」 22 手話を見て要約① 23 手話を見て要約② 24 聞き取りの通訳① 25 講演「生活用火災警報器」 26 聞き取りの通訳②「子どもボランティア」 27 聞き取りの通訳③「学習会」 28 聞き取りの通訳④「不在者投票」 29 聞き取りの通訳⑤「職場の研修会」 30 聞き取りの通訳⑥「5S活動」 31 聞き取りの通訳⑦「PTAの学習会」 32 聞き取りの通訳⑧「生きる力を育てる」

厚生労働省カリキュラム		現行テキスト		新テキスト案	
10	場面上における手話通訳技術(1)	1 申請場面での通訳練習 2 電話の通訳練習 3 あいさつ場面での通訳練習 4 面接場面での通訳練習 5 会議場面での通訳練習	17 場面通訳(求職相談) 18 場面通訳(デューダ-の交付申請) 19 場面通訳(夏祭りの実行委員会) 20 場面通訳(乳児訪問)	6	4
11	手話通訳能力の向上(2)	1 手話通訳に必要な表現能力を習得する 2 メッセージ構成能力の向上を図る 3 要約能力の向上を図る 4 手話読解を習得する	1 要約一語を聞いて要約①(ホームヘルパー) 2 要約一語を聞いて要約②(キャッチセールス) 3 要約一語を聞いて要約③(ビル・エレノの木) 4 要約一語を聞いて要約④(ことわざ) 5 要約一語を見て要約①(贈言センターの紹介) 6 要約一語を見て要約②(子どもたちに理解を) 7 要約一語を見て要約③(仕事の体験談)	105	7
9	手話通訳の技術(応用)	1 手話通訳に必要な基本技術を習得する 2 手話読解を習得する	8 聞き取りの通訳①(放見放送) 9 聞き取りの通訳②(健康講座) 10 聞き取りの通訳③(料理教室) 11 読み取りの通訳①(ろくろの思い出) 12 読み取りの通訳②(大会宣言) 13 読み取りの通訳③(近所付き合い)	9	6
10	場面上における手話通訳技術(2)	1 通訳場面上における遵守事項、留意事項を習得する 2 通訳場面上における個別の通訳技術を習得する 3 手話読解を習得する	14 事例研究①「福祉講座」 15 事例研究②「マンションの理事会」 16 事例研究③「職場のトラブル」 17 事例研究④「内科受診」 18 場面通訳①「速度違反の取り調べ」 19 場面通訳②「診察前の問診」 20 場面通訳③「QCサークルの会議」	105	7
18	手話通訳実習	1 模擬通訳場面練習(通訳事例研究) 2 手話通訳実習	1 模擬通訳場面演習①(検査結果説明) 2 模擬通訳場面演習②(保護者会) 3 事例研究とロールプレイ①(担任との個人懇談) 4 事例研究とロールプレイ②(会社の人事課より通訳依頼) 5 事例研究とロールプレイ③(胃痛で受診) 6 事例研究とロールプレイ④(福祉祭りの会議)	9	6
148	手話通訳実習	1 手話通訳実習	7 通訳実習(講義場面) 8 通訳実習(実習(講義場面)) 9 通訳実習(観察(会議場面)) 10 通訳実習(実習(会議場面)) 11 通訳実習(観察(面接場面)) 12 通訳実習(実習(面接場面))	9	6
30	応用			1485	168
				148	

手話奉仕員及び手話通訳者養成講座  
新テキスト【講義編】構成表

現行テキスト			新テキスト案			
	講義名	時間		講義名	時間	
入門課程	聴覚障害の基礎知識	2	奉仕員養成	聴覚障害の基礎知識	2	
	手話の基礎知識	1		手話の基礎知識	1	
	聴覚障害者の生活	2		聴覚障害者の生活 (DVD教材)	2	
基礎課程	障害者福祉の基礎	2		障害者福祉の基礎	2	
	聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度	2		聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度	2	
	ボランティア活動	1		ボランティア活動	1	
基本課程	手話通訳の心構え	2		通訳者養成I	手話通訳の心構え	2
	身体障害者福祉概論	1			身体障害者福祉概論	1
	ソーシャルワーク概論	2			ソーシャルワーク概論	2
応用課程	手話通訳の理念と仕事(1)	2	手話通訳の理念と仕事I		2	
	ことばの仕組み	2	ことばの仕組み ・「音声言語」 ・「手話」		2	
	手話通訳者の健康管理	1	手話通訳者登録制度の概要		1	
実践課程	手話通訳の理念と仕事(2)	1	通訳者養成II	手話通訳の理念と仕事II	1	
	聴覚障害児の言語発達			聴覚障害児の言語発達		
	手話通訳者登録制度の概要	1	実践	手話通訳者の健康管理	1	

手話奉仕員及び手話通訳者養成講座

新テキスト・指導書 定価

① 受講者用テキスト

	定 価	備 考
奉仕員 実技+講義 (DVD1枚付)	3,000 円 (税抜・本体価格)	
通訳 I 実技 (DVD付)	2,800 円 (税抜・本体価格)	
通訳 II 実技 (DVD付)	2,800 円 (税抜・本体価格)	
通訳 I II 講義編 (DVDなし)	1,700 円 (税抜・本体価格)	

② 指導書

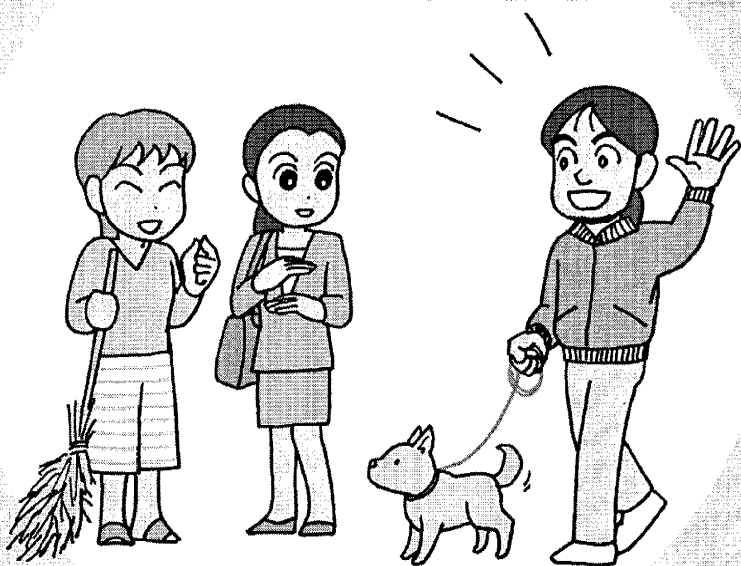
	定 価	備 考
奉仕員 (DVDなし)	2,500 円 (税抜・本体価格)	
通訳 I (DVD付)	3,500 円 (税抜・本体価格)	
通訳 II (DVD付)	3,500 円 (税抜・本体価格)	





手話奉仕員養成テキスト

# 手話を学ぼう 手話で話そう



発行：社会福祉法人全国手話研修センター  
発売：一般財団法人全日本ろうあ連盟

厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム 対応

# 手話奉仕員 指導書



発行：社会福祉法人 全国手話研修センター  
発売：一般財団法人 全日本ろうあ連盟

## 障害者 I T 総合推進事業 都道府県別実施状況 (平成 24 年度実績)

都道府県名	障害者 I T 総合推進事業		備考	都道府県名	障害者 I T 総合推進事業		備考
	○	障害者 I T ホール センター運営事業			○	障害者 I T ホール センター運営事業	
北海道	○			滋賀県	○	○	
青森県	○	○		京都府	○	○	
岩手県	○			大阪府	○	○	
宮城県	○	○		兵庫県			
秋田県				奈良県	○	○	
山形県	○			和歌山県	○		
福島県	○			鳥取県	○		
茨城県	○	○		島根県	○		
栃木県	○			岡山県	○	○	
群馬県	○	○		広島県	○	○	
埼玉県	○	○		山口県	○	○	
千葉県	○	○		徳島県			
東京都	○	○		香川県	○		
神奈川県	○	○		愛媛県	○		
新潟県				高知県	○		
富山県	○			福岡県	○	○	
石川県	○	○		佐賀県	○	○	
福井県	○	○		長崎県	○		
山梨県	○	○		熊本県			
長野県	○	○		大分県			
岐阜県	○	○		宮崎県			
静岡県	○	○		鹿児島県	○	○	
愛知県	○	○		沖縄県			地域生活支援事業の社会参加促進事業で視覚障害者向け P C 教室事業実施
三重県	○	○		計	39	26	

# 避難所等における視聴覚障害者等に対する情報・コミュニケーション支援について(例)

・避難所等において、視聴覚障害者への理解を求め。  
 ・視聴覚障害者に対する情報・コミュニケーション支援への協力を呼びかける。

## 安否の確認

被災地域の要援護者を確認

## ニーズの把握

障害特性に応じた支援内容

## 関係者との連携

避難所等における活動

## 避難所の説明

トイレや風呂、配給場所など

## 情報の共有

食料・救援物資の配給など

## 機材・物品

共用品・消耗品の手配など

## 視覚障害

・放送やハンドマイク等を使用し、避難所及び周辺地区で、声をかけて確認。

・障害の程度(全盲・弱視など)や情報取得方法(点字・音声・拡大文字など)等を確認し、必要な支援を把握する。

・行政、視覚障害者協会、視覚障害者情報提供施設、保健師等が連携し、ボランティアを効果的に活用する。

・ボランティア等を活用し、場所や使用方法、状況の変化などを適切に伝える。

・放送やハンドマイク等を使用し、必要に応じて個別に対応する等、最新の情報を確実に伝える。  
 (悪い例:「張り紙を見て下さい。」など)

・ラジオ  
 ・テレビ(解説放送)  
 ・乾電池(ラジオなど) 等

## 聴覚障害

・プラカードを使用し、避難所及び周辺地区で確認。(「聞こえない人はいませんか?」など)  
 ・手話通訳者、要約筆記者などは腕章等を着用。  
 (「手話できます」「耳マーク」の活用)など)

・障害の程度(聞こえの状態など)や情報取得方法(手話・文字・補聴器など)等を確認し、必要な支援を把握する。

・行政、聴覚障害者協会、聴覚障害者情報提供施設、手話通訳者、要約筆記者、保健師等が連携し、ボランティアを効果的に活用する。

・ボランティアやホワイトボード等を活用し、場所や使用方法、状況の変化などを適切に伝える。

・プラカードやホワイトボード等を使用し、必要に応じて個別に対応する等、最新の情報を確実に伝える。  
 (悪い例:「1時の放送を聞いて下さい。」など)

・テレビ(字幕・手話放送)  
 ・ホワイトボード(設置型、携帯型)  
 ・補聴器用電池 等